

いわき農林水産ニュース

(ふくしまからはじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動ニュース)



5月号 発行 平成27年5月26日



J Aいわき市梨部会指導会

4月15日(水)、JAいわき市梨選果場において、JAいわき市梨部会が梨栽培指導会を開催しました。午前是小川・高萩地区、午後は赤井・平窪・内郷・好間地区の部会員計50名が出席しました。

いわき農林事務所からは、現在の開花状況や授粉作業、病害虫防除について説明しました。

これまで授粉作業は、人手と時間のかかる作業でしたが、現在は花粉を糖液に溶かして散布する「液体授粉」が普及しており、省略化が図られています。

今年は花の生育がかなり早く、授粉作業は4月中旬から始まりました。

今年もいわき農林事務所は、不順天候や病害虫に負けない、おいしい梨作りを支援していきます。



(梨の花の開花状況)



(梨栽培指導会の様子)
(農業振興普及部)



いわき市産鉢花の直売を実施!

4月12日(日)、いわき市鹿島町において、いわき花き鉢物研究会が「かしまふれ愛さくら祭り」でいわき市産鉢花のPRと需要の拡大のため直売を行いました。

いわき花き鉢物研究会は、市内の鉢物生産者で組織されており、祭りでは消費拡大につながるよう生産者自らが積極的に商品の紹介や管理方法を説明し、鉢花をPRしました。

当日は天候に恵まれ、復興関連イベントとの同時開催だったこともあり大勢の人々が訪れ、終了の17時を待たずに完売となりました。

直売に参加した生産者は、消費者の好みを肌で感じ、今後の生産活動の参考となる情報も得ることができました。



(いわき花き鉢物研究会の皆さん)



(商品を説明して丁寧に対応)
(農業振興普及部)

福島県国際農友会いわき支部通常総会及び海外派遣研修生帰国報告会

4月10日（金）、勿来温泉関の湯において、平成26年度福島県国際農友会いわき支部通常総会及び海外派遣研修生帰国報告会が行われました。総会では、平成26年度事業・収支決算報告及び平成27年度事業計画・収支予算が承認されました。

その後、鈴木雅史氏（佐糠町）より、1月18日から28日までアメリカのカリフォルニア州及びフロリダ州で実施された農業研修の報告がありました。

鈴木氏は、アメリカの農場は会社組織化され、それぞれが特色を持った経営を行っていることや、アメリカの経済を支える柱の一つに農業が位置づけられ、政策的に支援されていることなどを発表しました。

最後に、鈴木氏から「アメリカの農業者の経営に関する考え方を取り入れ、受け身ではなく自ら仕掛けていく農業を行うことが、日本の農業の発展に必要と感じた。アメリカで学んだことを生かして農業を楽しみたい。」と今後の抱負が聞かれました。

（農業振興普及部）

J Aいわき市ファーマーズ・マーケット部会総会を開催！

4月22日（水）、パレスいわきにおいて、J Aいわき市ファーマーズ・マーケット部会の総会が開催されました。

会長からは、「震災から4年が経過し、直売所の売上げは戻りつつあるが、若い世代の消費者がまだ戻っていないような気がする。会員全員が『新鮮野菜館の経営者』として売上げ増を目指してがんばりましょう。」と挨拶がありました。

総会では、平成26年度事業報告、平成27年度事業計画、規約等の改正及び役員改選等について協議されました。

また、今秋には南部に新しい直売所がオープンする予定となっているため、震災前の賑わいを取り戻すようみんなで力を合わせていくことを確認しました。

総会后に、いわき農林事務所が「消費者の期待に応える直売所とは」をテーマに講演を行い、出荷者同士がどのような直売所にしたいかといった直売所の基本理念を共有し、安全を担保するためGAPに取り組むことを確認しました。

（農業振興普及部）



平木材市場創立57周年記念市が開催されました！

4月23日（木）、内郷綴町にある株式会社平木材市場の創立57周年式典と記念市が開催されました。式典には林業・木材産業関係者を中心に約50名が出席し、齋藤公男社長から「昭和33年6月創業以来、3017回目の市を開催することができたのも、関係者のご支援があったからこそです。今後も安定的な国産材の供給基地として取り組んでいきたい。」と挨拶がありました。その後、優良買方と荷主への表彰が行われました。

記念市には素材3,000m³が出品され、場内には競りに参加する買方と市場職員の声飛び交い、出品された素材は全量が完売となりました。



（競り売りの様子）

（森林林業部）



「緑の募金」街頭募金の実施

4月26日（日）、いわき・ら・ら・ミュウ及びアクアマリンパークにおいて、いわき市緑化推進員会主催の「緑の募金」街頭募金を実施されました。

この街頭募金は、毎年4月1日～5月31日の「緑の募金運動推進期間」に実施されています。

今年は「今植えた 小さなその芽が大きな未来」をテーマに、いわき市立汐見が丘小学校緑の少年団35名とサンシャインガイドいわき2名、磐城森林管理署、いわき市森林組合、県造園建設業協会いわき支部及び福島県いわき農林事務所の協力のもと行われました。

当日は好天に恵まれ多くの観光客が会場を訪れる中、各活動場所で緑の少年団の募金を呼びかける元気な声が響きました。募金は、観光客だけでなく地元商店

街の方々からも寄せられました。

募金に協力をいただいた方には、緑の羽根の他、ペチュニアやガザニアなどの花の苗が緑の少年団より配られ、色鮮やかな花の苗を手にした親子連れなどが笑顔を浮かべる光景があちらこちらで見られました。

今後も地域緑化推進のため、「緑の募金」にご協力をよろしくお願いします。



(募金をしていただきました)
(森林林業部)

平成27年度コウナゴ試験操業 結果について

3月31日から4月23日の間、いわき地区のコウナゴ試験操業が7回行われ、計25.8トンの水揚げがありました。昨年は、6回の試験操業で、計10.5トンの水揚げだったので、昨年を大きく上回る結果となりました。

今年は漁況が良かったことに加え、昨年は2班に別れて半数ずつ出漁していたのを改め、可能な船は週2日出漁したことも増加した要因です。

水揚げされたコウナゴは、茨城県の大津加工組合へ引き渡され、乾燥品に加工された後、築地などへ出荷されました。価格は、他県産にくらべると若干安値でした。

夏以降は、船びき網によるシラス漁が行われる予定であり、試験操業の継続的な出荷によって安全性をアピールし、風評払拭に繋がりたいと考えています。



(小名浜魚市場におけるコウナゴの出荷風景)
(水産事務所)

アワビの試験操業について

5月7日(木)、豊間地区、四倉地区において、今期初めてアワビの試験操業が行われました。

5月11日に漁獲した薄磯地区分とあわせて、14日にアワビ32個、重量にして9.9kgが仲買組合に引き渡されました。

いわき市をはじめ、福島市、郡山市、会津若松市の各消費地市場に出荷され、8,500~10,000円/kgの高値で取引されました。

今年も昨年に引き続き、安全性のPRやブランド化を図るため、福島県産を示すタグを付けて出荷しています。



(県産と連番が記載されたタグ付きのアワビ)
(水産事務所)

「ふくしまの恵みPR支援事業」 第2期募集のお知らせ

いわき農林事務所では、県産農林水産物等の販売・消費の拡大を図るため、「ふくしまの恵みPR支援事業」を実施する事業者を募集しています。

農林漁業者が組織する団体やNPO法人等が実施する県産農林水産物の販売促進PRに対して、75万円まで補助します。

詳細は、企画部担当(0246-24-6197)までお問い合わせください。

○募集期間：平成27年6月1日(月)
～6月15日(月)

○事業実施主体

県内に主たる事務所を置く、農林漁業者の組織する団体、特定非営利活動法人等

- 補助対象経費
国内において実施する県産農林水産物等の販売促進等PRに要する経費
- 補助額
750千円（上限）

（企画部）

**いわき地方の農林水産物
モニタリング検査結果**

農林畜産物の放射性モニタリング検査結果

福島県が行った、いわき地方の4月の農林畜産物の放射性物質モニタリング検査結果をお知らせします。

検査した11品目24検体の全てにおいて、放射性セシウムが検査機器の検出限界値以下でした。内訳は（表1）のとおりです。

（表1）1点も放射性セシウムが検出されなかった品目と検体数

アスパラガス（施設）2、紫アスパラガス 1、トマト（施設）3、キュウリ（施設）2、ホウレンソウ 1、ミニトマト（施設）2、菌床しいたけ（施設）4、菌床なめこ（施設）2、豚肉 1、牛肉 3、原乳 4

4月30日現在、いわき地方産の農林畜産物で出荷が制限されているのは（表2）のとおりです。

（表2）出荷制限および出荷自粛品目（4月末現在）

制限、自粛	区分	品目
出荷制限 （7品目）	野菜・根菜・芋類	—
	果物	—
	穀類	—
	山菜	たけのこ、ぜんまい、わらび、こしあぶら、たらめ（野生のものに限る）
	きのこ	原木なめこ（露地）、野生きのこ
出荷自粛 （1品目）	畜産物	—
	山菜	さんしょう（野生のものに限る）

（企画部）

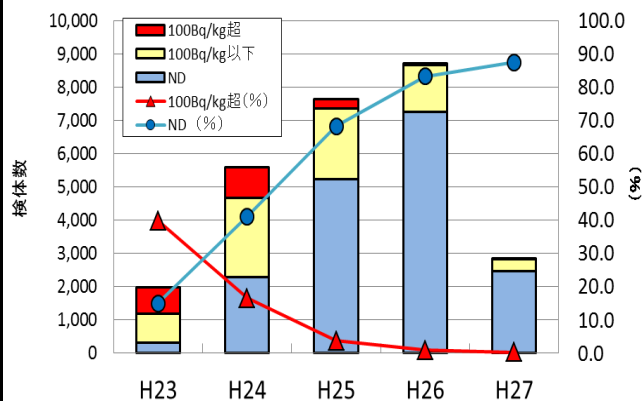
海産魚介類の緊急時モニタリング検査結果

福島県沖で採取された海産魚介類への放射能の影響は、時間の経過とともに着実に低下しています。

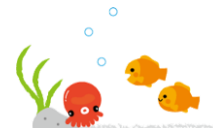
4月までに基準値の100Bq/kgを超えたものは4検体で、全体の0.1%でした。内訳は（表3）のとおりです。

（表3）平成23年以降のモニタリング検体数と割合

年		100Bq/kg超	100Bq/kg以下	不検出	計
H23	検体数	785	893	294	1,972
	割合(%)	39.8	45.3	14.9	100.0
H24	検体数	921	2,372	2,287	5,580
	割合(%)	16.5	42.5	41.0	100.0
H25	検体数	280	2,147	5,214	7,641
	割合(%)	3.7	28.1	68.2	100.0
H26	検体数	75	1,387	7,260	8,722
	割合(%)	0.9	15.9	83.2	100.0
H27	検体数	4	353	2,469	2,826
	割合(%)	0.1	12.5	87.4	100.0
計	検体数	2,065	7,152	17,524	26,741
	割合(%)	7.7	26.7	65.5	100.0



（水産事務所）




いわきの情報をお知らせします！

福島県いわき農林事務所
いわき市平字梅本15番地(福島県いわき合同庁舎3F)
TEL.0246-24-6197 FAX.0246-24-6196

mail kikaku.af07@pref.fukushima.lg.jp
http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/
Q いわき農林事務所 検索

**今が旬の野菜
ブロッコリー**
ご紹介します！



ブロッコリーの原産地は、地中海周辺地域であり、明治時代にヨーロッパから日本に伝わりました。1970年以降、食卓によく食べられるようになった緑黄色野菜で、カルシウム、鉄分、カロテン、ビタミンCを豊富に含む非常に栄養価の高い野菜です。春のブロッコリーは、県内では一部地域で栽培されており、1～2月頃に種まきされたものが、5～6月頃に収穫されています。

ブロッコリーの食用部分は、花のつぼみと茎ですが、茎は栄養があるにもかかわらず、茎の固さや皮が食べにくいといった理由で避けられがちです。茎の調理方法としては、茎の皮をむいて薄い緑色になったものを玉ねぎや桜えびと合わせてかき揚げにすると、甘味が増しておいしく食べられるのでおすすめです。

ぜひ直売所をのぞいて、いわき市産の瑞々しく柔らかい春のブロッコリーをご賞味ください。

食彩ふくしま地産地消推進店のメニューの紹介

地産地消推進日(6月は8日(月))に合わせ、いわき農林事務所に情報提供のあった食彩ふくしま地産地消推進店のメニューを紹介しますので、ぜひご賞味ください。なお、店舗の都合により内容は変更される場合がありますのでご了承ください。また、営業日(メニューの実施日)については、事前にご確認ください。

○ 北の屋そばや(植田町)

《地産地消メニュー》天ぷらごはん、天ざるそば、天ざるうどん、小天井

《説明》いわき地方の野菜をできるだけ多く使用しています。

《店舗からの情報》平日得々献立(ランチ)を実施しています。

《店舗の連絡先》

住 所:いわき市植田町本町1-10-1

電話番号:0246-62-4752

《店舗の写真》

※北の屋専用駐車場あります。



(北の屋そばや全体)



(北の屋そばや正面)

いわき農林事務所からのお知らせ

○ふくしまの最新情報を「ふくしま 新発売。」に掲載していますのでどうぞご利用ください。

<http://www.new-fukushima.jp/index.html>

- 1 「がんばろう ふくしま応援店！」一覧
- 2 イベント情報
- 3 農林水産物モニタリング情報
 - (1) モニタリング情報検索
 - (2) 出荷制限等一覧表



「東日本大震災」
及び「原発事故」からの
復興のために！

◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。
福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地
(県いわき合同庁舎 3階)
T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196
U R L <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>



いわき農林水産ニュース